

各関係機関、団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察注意報（第4号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和元年度 病害虫発生予察注意報（第4号）

令和2年2月28日

愛媛県

病害虫名 ベと病

作物 たまねぎ

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多 発生時期：早い

3 注意報発表の根拠

- (1) 2月上・中旬の定点調査では、過去2か年（調査は平成30年より開始）の平均値に比べ、発生圃場率、平均発病株率ともに高く（表1）、一部圃場ではすでに病勢進展を確認している。
- (2) 2月上・中旬に広域調査を実施した結果、発生圃場率は9.7%、平均発病株率は0.32%となり、過去3か年（調査は平成29年から開始）の平均値に比べて高くなっていることから、本年の発生は早期化している（表2）。
- (3) 2月27日発表の気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、早い時期からの発病程度の高まりが予想される。

4 防除上の注意

- (1) 越年罹病株（一次伝染株）は、やや萎縮し葉身が湾曲する症状を示す（写真1、2）。湿潤な気象条件下（気温15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生子が形成され、周辺に飛散し二次伝染を起こす（写真3、4）。
- (2) 圃場観察は丁寧に行い早期発見に努め、越年罹病株は直ちに抜き取り、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (4) 発病後の薬剤散布は防除効果が劣るので、早くから計画的に散布を実施する。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪いため、展着剤を必ず加用し散布する。
- (5) 防除は降雨等の天候を考慮しながら7～10日間隔で行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション使用する。
- (6) 分生子は広範囲に飛散するため、地域一体となって防除すると効果が高まる。
- (7) 農薬の散布にあたっては農薬安全使用基準を順守し、周辺農作物への飛散防止対策を徹底する。

表1 たまねぎの定点圃場におけるべと病の発生調査結果

調査圃場数	発生圃場率(%)		平均発病株率(%)	
	R2.2	平均値	R2.2	平均値
6	33.3	7.1	2.8	0.2

1) 調査対象は越年罹病株(一次伝染株)

2) 平均値はH30.2、31.2の2か年間実績

表2 たまねぎ(普通期)におけるべと病の発生調査結果

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)		平均発病株率(%)	
			R2.2	平均値	R2.2	平均値
東予	22	3	13.6	1.3	0.78	0.11
中予	20	1	5.0	12.8	0.09	0.04
南予	20	2	10.0	1.7	0.06	0.02
県全体	62	6	9.7	6.8	0.32	0.06

1) 調査対象は越年罹病株(一次伝染株)

2) 平均値はH29.3~H31.3の3か年調査実績

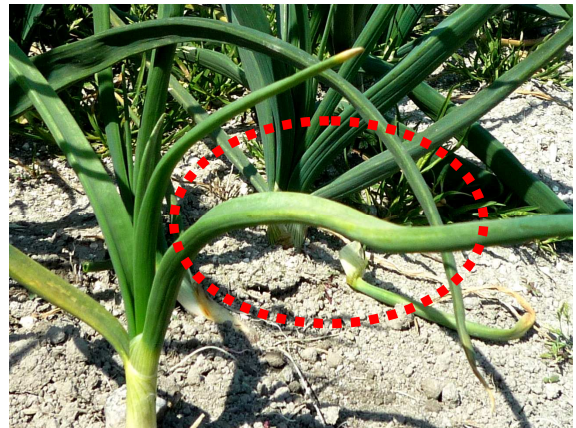
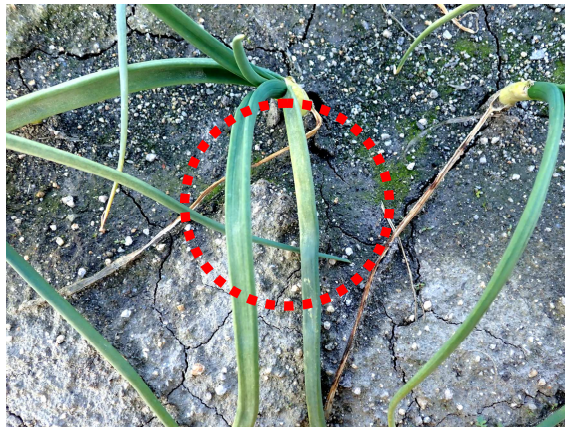


写真1、2 越年罹病株(一次伝染株)

(○: 発病部、2020年2月)



写真3 二次伝染による多発圃場

(左: 多発圃場、右: 健全圃場)



写真4 二次伝染による多発圃場

(2016年4月)